

# 製品安全データシート

## 1. 製品及び会社情報

製品名	CLIMAXファブリックコート 硬化剤
製造元	株式会社ソフト99オートサービス 開発部 〒540-0038 大阪府大阪市中央区内淡路町 3-1-3 ☎ 06-6947-9955 FAX 06-6945-9991
製品説明	
*推奨用途	布地用コーティング剤
*使用上の制限	業務用

## 2. 組成・成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

化学名又は一般名	CAS 番号	含有量(%)	化審法	安衛法
純水	7732-18-5	98		
多価カルボジイミド	非開示	2	一般化学物質	公表物質

## 3. 危険有害性の要約

### GHS 分類

【物理化学的危険性】	引火性液体	区分外
	自然発火性液体	区分外
	金属腐食性物質	分類できない
【健康に対する有害性】	急性毒性（経口）	分類できない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入・蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入・ミスト）	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分3
	目に対する重篤な損傷・目刺激性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）	分類できない
【環境に対する有害性】	水生環境慢性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない

## 【GHS ラベル要素】



### 【注意喚起語】

警告

### 【危険有害性情報】

アレルギー性皮膚反応を起こす恐れ、軽度の皮膚刺激

### 【注意書き】

#### \*安全対策

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ミスト、蒸気などを吸入しない。換気の良い場所で使用する。
- ・この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- ・容器を密閉しておくこと。
- ・環境への放出を避ける。
- ・適切な保護手袋、眼鏡、保護衣、保護マスク等を使用する
- ・使用後は保護衣を良く洗う。取り扱い後は良く手を洗う。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと
- ・汚染された衣類を再使用する場合は、洗濯すること。

#### \*救急措置

- |            |   |
|------------|---|
| 皮膚にかかった場合  | ・汚染された衣類及び付着物を取り除く。皮膚を多量の水と石けんで洗う                     |
| 眼に入った場合    | ・直ちに最低 15 分間以上の大量の水で洗う。眼科医の手当を直ちに受ける。                 |
| 吸入した場合     | ・空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休憩させる。気分が悪い時などは医師の診断を受けるのが望ましい。 |
| 飲み込んだ場合    | ・意識が完全であればコップ 2 杯の水または牛乳を与え嘔吐させる。直ちに医師の処置を受ける。        |
| 皮膚刺激が生じた場合 | ・医師の診断、処置を受けること。取り扱った後は手を洗う。                          |

### 【保管】

- ・容器は密閉して冷暗所に保管する。施錠して保管すること。

### 【廃棄】

- ・内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

## 4. 応急措置

汚染された衣類を速やかに脱ぐ。

頭痛・咳・咽頭痛・吐き気などの自覚症状が起こった場合には、直ちに医師の処置を受ける。

- |           |   |  |
|-----------|---|--|
| 吸入した場合    | ： | 被災者を直ちに空気の新鮮な場所へ移し、呼吸をし易い姿勢で休息させる。呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で、人工呼吸を行う。体を毛布などでおおい、保温して安静を保つ。直ちに医師の処置を受ける。 |
| 飲み込んだ場合   | ： | 水で口の中を洗浄し、コップ 1～2 杯の水または牛乳を飲ませ嘔吐させる。直ちに医師の処置を受ける。被災者に意識がない場合には、口から何も与えてはならない   |
| 眼に入った場合   | ： | 直ちに、清浄な水で最低 15 分間以上洗眼した後、直ちに眼科医の診察を受ける。洗眼の際、眼瞼を指で開いて眼瞼、眼球のすみずみまで水がよく行きわたるように十分に洗う。                                   |
| 皮膚に付着した場合 | ： | 汚染された衣類を直ぐに脱ぐ。付着した部分を直ちに多量の水又は 微温湯を流しながら中性石鹼で皮膚の刺激がなくなるまで十分に 洗浄する。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の処置を受ける。取り扱った後は必ず手を洗う。          |

応急措置をする者の保護

: 救助者はゴム手袋と保護眼鏡などの保護具を着用する。

## 5. 火災時の措置

- 【消火剤】 : 粉末消火薬剤、AFFF（水性膜泡消火薬剤）、泡消火薬剤、炭酸ガス、水等
- 【特定の危険有害性】 : 燃焼生成ガス中には、一酸化炭素、窒素酸化物（NOx）等を含む有害なガスが含有される。火災の状況により、他の有害物質発生の可能性がある。
- 【特定の消火方法】 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合には、容器 および周囲に散水して冷却する。
- 【着火した場合】 : 初期の火災には、粉末消火薬剤、炭酸ガス、乾燥砂などを用いる。大規模火災の際には泡消火器具を用いて空気を遮断することが有効である。
- 【消火を行う者の保護】 : 自給式呼吸器具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 【人体に対する注意事項】 : 作業の際は適切な保護具を着用し、漏出した液が皮膚に付着しないようにする。
- 【環境に対する注意事項】 : 漏出した製品が河川、水路等へ流出しないよう注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
- 【回収・中和方法】 : 漏出源を遮断し、漏れを止める。少量の場合は、乾燥砂・土・おがくず・ウエスなどに吸収させて、密閉できる空容器に回収する。大量の場合は、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
- 【二次災害防止策】 : 着火の原因となるものを速やかに取り除き、漏出した場所及びその周囲へ関係者以外の立ち入りを禁止する

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 【取り扱い】

技術的対策 : 皮膚に付いたり、蒸気やミストを吸入しないように適切な保護具を着用する。蒸気やミストを吸入する可能性がある場合は、呼吸器具等の保護具を着用し、通気の良い場所で作業すること。

安全取扱注意事項 : 取り扱い後は手や顔などをよく洗う。

### 【保管】

適切な保管条件 : 容器は密栓して冷暗所に保管する。カルボン酸、アルコール、アミン等の活性水素化合物が混入すると付加体を形成するため注意を要する。

## 8. 暴露防止及び保護措置

- 【許容濃度】 : データなし  
【管理濃度】 : データなし  
【設備対策】 : 蒸気およびミストが発生する場合は、排気装置を設ける。取り扱い場所の近辺に洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。

### 【保護具】

- 呼吸器の保護具 : 蒸気、ミストが発生する場合は、マスクを使用する。  
手の保護具 : 不浸透性保護手袋（ポリエチレン、ゴム製など）を着用する  
目の保護具 : 保護面、保護眼鏡、ゴーグル等を着用する。  
皮膚及び身体の保護具 : 長袖の作業衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 【物理的状态】

- 形状 : 液体  
色 : 淡黄色透明  
臭い : 弱アミン臭  
沸点 : データなし  
融点 : データなし  
引火点 : 水溶液のため測定不能 発火点  
: データなし  
分解温度 : データなし  
爆発特性 : 爆発限界 上限 : データなし  
: 下限 : データなし 蒸気圧  
: データなし  
密度 : 1.04 (20℃) 溶解性  
: 水と自由に混和  
オクタノール/水分配係数  
: データなし  
pH : 8～11

## 10. 安定性及び反応性

- 【安定性】 : 室温（25℃）以下では概ね安定である。  
【反応性】 : カルボン酸、アルコール、アミン等の活性水素化合物が共存すると反応し、付加体を形成する。  
【避けるべき条件】 : 高温または直射日光下での保管。混触危険物質との接触。  
【混触危険物質】 : 禁水性物質、酸化剤  
【危険有害な分解成分】 : 燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物などが発生する。

## 11. 有害性情報

- 【急性毒性】 : データなし
- 【皮膚腐食性・刺激性】 : 軽度の皮膚刺激（区分3）  
（多価カルボジイミド）  
Slightly Irritant（ウサギにおける急性皮膚刺激性/腐食性試験）  
陰性（皮膚 ヒト 48時間）
- 【眼に対する重篤な損傷・刺激性】 : データなし
- 【呼吸器感作性または皮膚感作性】  
呼吸器感作性 : データなし  
皮膚感作性 : （多価カルボジイミド）  
。アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ（区分1）
- 【生殖細胞変異原性】 : （多価カルボジイミド）  
陰性（Ames test）
- 【発がん性】 : IARC（国際ガン研究機構）およびNTP（米国国家毒性プログラム）  
のリストに記載されていない
- 【生殖毒性】 : データなし
- 【特定標的臓器・全身毒性－単回暴露】 : データなし
- 【特定標的臓器・全身毒性－反復暴露】 : データなし
- 【吸引性呼吸器有害性】 : データなし

## 12. 環境影響情報

- 【土壌中の移動性】 : データなし
- 【生態毒性】 : データなし
- 【生物蓄積性】 : データなし
- 【分解性】 : データなし

## 13. 廃棄上の注意

- 【残余廃棄物】 : 廃棄は、都道府県条例に従い廃棄処理を行う。認可を受けた処理業者に委託する。関係法規・法令を遵守して適正に処理する。

## 14. 輸送上の注意

### 【国内規制】

消防法 : 非該当  
道路法 : 非該当  
船舶安全法 : 非該当  
航空法 : 非該当

【国連分類】 : 非該当

【国連番号】 : 非該当

### 【輸送の特定の安全対策および条件】

: 輸送に際しては直射日光を避け、容器からの漏れのないことを確かめ、落下、転倒、損傷がないように積み込み、荷くずれの防止を確実に行う

【緊急時応急措置指針番号】 : 非該当

## 15. 適用法令

【化審法】 : 特定化学物質・監視化学物質に該当しない。

【消防法】 : 非該当

【化学物質管理促進法】 : 非該当

【毒物及び劇物取締法】 : 非該当

【労働安全衛生法】 : 非該当

【海洋汚染防止法】 : 非該当

【船舶安全法】 : 非該当

【航空法】 : 非該当

【港則法】 : 非該当

【輸出貿易管理令】 : 経済産業省のガイドラインを参照することが望ましい。

## 16. その他の情報

【引用文献】 : 化学薬品の混触危険ハンドブック 第2版 東京消防庁編、日刊工業新聞社(1997)  
化学物質ハザード・データ集 (財)化学品検査協会編(2002)  
14504の化学商品 化学工業日報社(2004)

【注記】 この製品安全データシートは、化学物質等安全データシートの日本工業規格 (JIS Z 7250 : 2005) に沿って作成致しました。本記載内容は現時点で入手可能な資料や情報に基づいて作成しておりますが記載の数値や評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また注意事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には、用途、用法に適した安全対策実施のご配慮をお願いいたします。また記載されている内容は情報提供であって保証するものではありません。